令和３年度三田市高校生議会　　質　問　書

【質　問　者】６番　三田学園高等学校　２年　鈴木　凜太朗（すずき　りんたろう）

【担　当　課】地域創生部　産業戦略室　まちのブランド観光課

【答弁予定者】広報・交流政策監

【質 問 事 項】若者が暮らしたいと思える街づくりについて

【質 問 内 容】

６番　高校生議員の三田学園高等学校２年の鈴木　凜太朗です。私からは若者が暮らしたいと思える街づくりについてお伺いします。

私は休日になるとよく三田市のボーリング場やカラオケに行きます。遊びに行くと、お年寄りの方が多いと感じることがよくあります。そこで三田市が現状抱えている問題として人口減少が進んでいるという資料を市ホームページで見つけました。何とかこの問題を打破できる策はないかとこのテーマを選びました。

まず、この問題の要因として三田市には他の街のひとがいいなと思えるような魅力がある場所や施設が少ないように感じます。三田市に泊まりにくる客は少なく日帰りで来る客が多いという現状を受けて、三田市には豊かな自然が多いので、自然に囲まれたコテージや宿を建てるのはどうでしょうか。魅力ある施設や場所があるということは集客に繋がり三田市の若者離れを防げると思います。

また三田市が行う観光客を増やすためのイベントや工夫の具体例を市役所の方に聞き驚きました。楽しそうなイベントをたくさんしているのに何一つ私が知らなかったからです。私が知らないということは多分ほかのみんなも知らないと思います。色んな魅力的な取り組みをしても全然誰も知らないことこそ問題だと考えます。

そこで提案としては市役所の方を各学校に派遣して講演会を開くなどして多くの人に知ってもらえるような取り組みをすればいいと思います。あとは、今はＳＮＳの時代なのでＳＮＳで発信することにも力を入れることができたらいいなと思います。具体的な例としてＳＮＳの投稿に＃三田市のごはんなど「ハッシュタグ」をつけることを流行らせるなど多くの人に三田市の魅力が伝わる工夫が必要だと考えます。

以上のことにつきまして、市の考えをお聞かせください。

【答 弁 内 容】

議員ご指摘のとおり、人口減少は本市の重要課題ですが、同時に本市は人口減少にも負けないまちを目指しています。まちに賑わいを生み出すため、取組んでいる一つの手段が観光振興で、イベントや、観光に訪れた人々が、三田の地で、三田に在る魅力を楽しむことで、何度も繰り返し訪れたくなる。訪れる人と地域の人が交流することで、まちに活気が生れ、ひいては地域経済が循環していくことを目指しています。

確かに三田市は日帰り客が多く、過去5年間の観光入込客数の日帰り客の割合は95%前後で推移しています。しかしこれは大阪・神戸から1時間程度で気楽に来られるまちの強みであるとも言えます。ビルの立ち並ぶ町から少し足を伸ばすだけで、豊かな里山の風景に触れることができ、様々な体験型イベントに参加できます。議員ご指摘にあるコテージや宿も、今ある魅力的施設をもっと活用し、宿泊客もしっかり増やしていくことが大切と考えます。

現在、三田市のブランド力を強化し、多くの方に三田の魅力を感じていただくための多様な事業に取り組んでいます。例えば、三田出身の幕末の蘭学者川本幸民にちなんだ「三田ビール検定」や、三田のまち全体に、子どもたちや大人の笑顔が溢れる「サンタ×三田プロジェクト」です。また今年度は、新たに策定した「三田市観光ビジョン」に基づき、着地型観光、マイクロツーリズムという新しい観光トレンドを取り入れた「さんだのまちを遊ぶ博覧会」（まち博）という事業を立ち上げました。自然、農業や豊かな食、伝統文化など三田にある幅広い魅力を、地域で活躍する人々や、市内事業者や企業、団体と一緒に、さらに磨きをかけていく取組みです。昨年秋に実施した11のまち博プログラムは、市内外の参加者から好評を得られ、今後もさらに充実させていきたいと考えています。

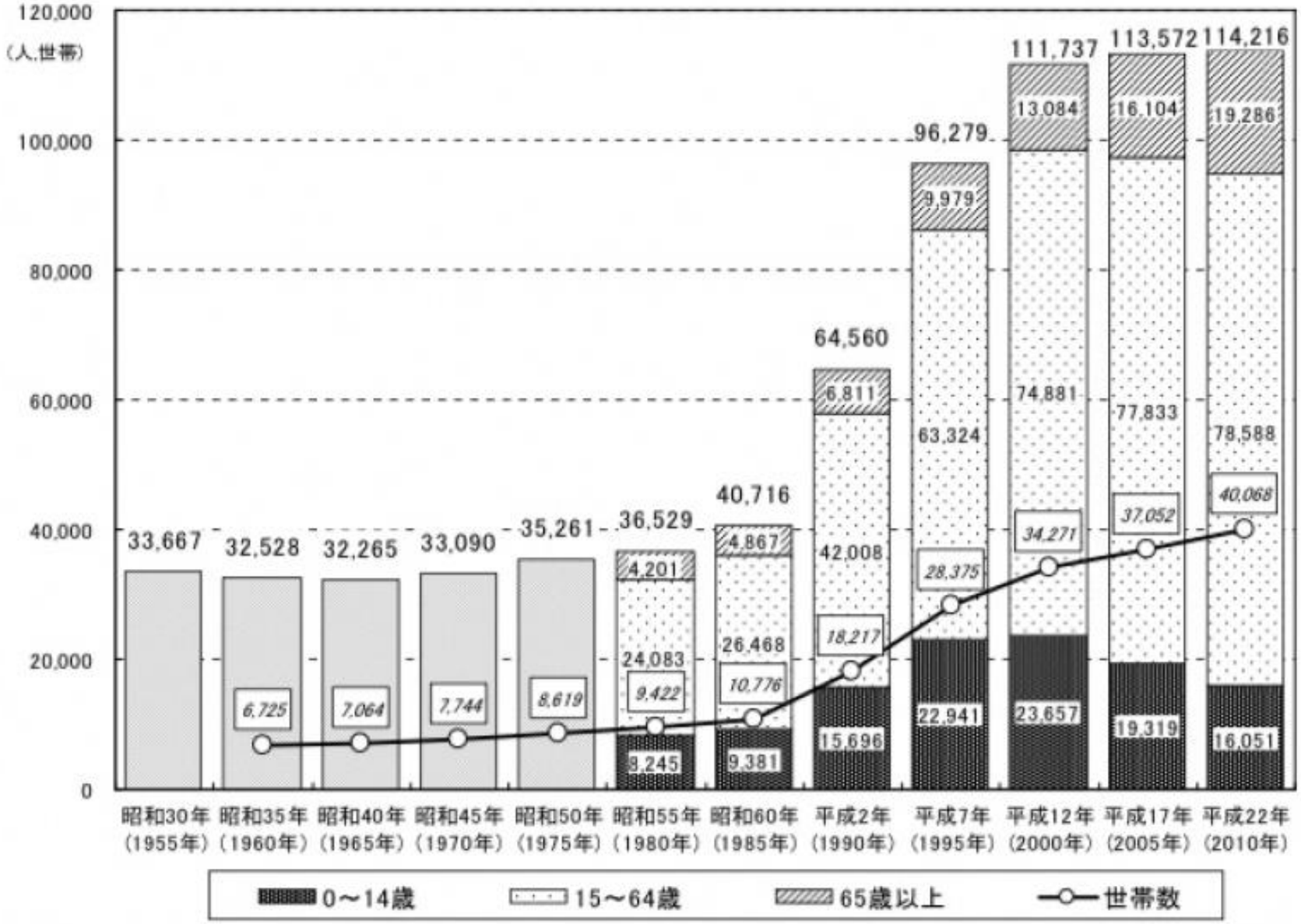
しかし、いくら素晴らしい取組みをしても、それが人々に届かなければ意味がありません。議員ご提案の職員を学校に派遣して講演会を開くという取組みでは、これまでにも市内の各高等学校の探求授業などに、職員を派遣してきたところです。また、市民の皆さんの要望を受けて、市が手掛ける様々な事業を説明する「出前講座」という取組みも実施しております。

ＳＮＳによる情報発信では、現在、市の公式ＳＮＳとして、インスタグラム、フェイスブック、ＬＩＮＥがあります。若者をはじめ多くの方に生きた情報を届ける有効な手段としてだけでなく、これまで季節に応じたテーマを設定し、プレゼント企画なども実施することで投稿を募集、投稿者自らが「＃」をつけて三田の魅力の発信者となり、情報が広く伝播するよう取組んできたところです。若者や多くの世代の方に情報を届けるため、こうした取組を

継続しつつ、さらなる工夫をこらして伝わる情報発信に注力してまいります。

　どうすればワクワクする情報がより多世代の多くの人に届くのか、さまざまな取組みを実践しながら、議員のように三田をもっとよくしたいと思っておられる若者の皆さんのアイディアも取りいれ、皆さんと一緒に、来てよかった、住んで良かったと思ってもらえる魅力的なまちとなることを、これからも、目指してまいります。

国勢調査による人口・世帯数の推移



資料：国勢調査（総数には年齢不詳分を含む）